

(3) 水産業の健全な発展

(3) - 1 流通の多角化・強靱化

〈多様で革新的な流通モデル実践事業〉 事業費:10,000 千円

(補助先:滋賀県漁業協同組合連合会)

～事業の背景～

琵琶湖漁業は高齢化が進み生業としての承継が課題となる中、コロナ禍をきっかけに、流通停滞や魚価低迷等、既存の流通体制では漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。琵琶湖漁業の維持発展のためには、流通の多角化と、琵琶湖漁業全体での販売力強化が必要となっています。

～事業の内容～

【令和3～5年度】

漁業組織主体の新たな湖魚流通の仕組み（県内集出荷体制）の構築をめざし、漁業組織が流通事業者と連携して新たな販路の検討・実践を行う取り組みを支援。

コアユの稚魚“氷魚（ひうお）”、コアユ、ホンモロコの首都圏等への新たな流通について、漁協組織が主体となり、主に BtoB 向けの実践的な検討や試行を取り組むことができました。

【令和6～7年度】

多様なニーズに応える安定した湖魚流通をめざし、これまでに構築した県内集出荷体制を活かし、新たに湖魚流通の安定化・高品質化に県域で取り組む漁業組織の活動を支援します。



滋賀県漁連による首都圏での展示商談会出展
(第13回通販食品展示商談会)

〈県がセールス担当として“湖魚”の魅力売り歩く事業〉 事業費:2,500 千円

～事業の背景～

新型コロナウイルス感染症の影響により、流通停滞や魚価低迷等、既存の流通体制や漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。コロナ後の“湖魚”の戦略的なPRに、本県水産業全体の振興の観点から、県職員がセールス担当として主導的に取り組むとともに、世界農業遺産に「琵琶湖システム」が認定されたことを好機と捉え、そのストーリー性を活かした「ご当地グルメ開発」等を実施し、湖魚の消費拡大につなげます。

～事業の内容～

- ・新たな湖魚の需要を掘り起こし、漁協・事業者等の販促活動をサポート。
- ・湖魚の魅力や旬の情報を発信するとともに、びわ湖めぐみ紹介 WEB サイトに「BtoB」機能を追加し、県職員による情報を紡ぐ活動の高度化を図る。
- ・世界農業遺産「琵琶湖システム」のストーリー性を活かした、ご当地グルメ開発等を実施。
- ・「琵琶湖八珍マイスター」とともに“琵琶湖システム”の魅力をPR。漁業見学やメニューフェアなど、年間を通じて湖魚を堪能できる“琵琶湖システム”との連動企画を展開。

～琵琶湖八珍～



「琵琶湖八珍」は琵琶湖を代表するビワマス、コアユ、ハス、ホンモロコ、ニゴロブナ、スジエビ、ゴリ、イサザの計8種の魚介類で構成しています。平成25年末、滋賀県立安土城考古博物館が来場者への湖魚料理人気アンケートを基に供給量などを考慮し選定したものです。

滋賀県では、琵琶湖を代表する8種の魚介類「琵琶湖八珍」を提供する飲食店や旅館、土産物店などに「琵琶湖八珍マイスター」として登録いただき、湖魚の消費拡大とブランド化に向けてともに取り組んでいます。



(3) - 2 人材の育成及び確保

〈しがの漁業担い手フルサポート事業〉 事業費:16,450 千円(委託)

委託先:滋賀県漁業協同組合連合会、民間事業者

～事業の背景～

県内の漁業就業者数は高齢化が進むとともに減少の一途を辿っており、担い手の確保と育成が喫緊の課題です。さらに、コロナ禍の影響による魚価低迷等、漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。琵琶湖漁業の維持発展のためには、あらゆる面からのサポートによる担い手の確保と漁業全体の販売力の強化が必要となっています。

～事業の内容～

『しがの漁業担い手フルサポート事業』は3つの事業で構成されています。

(1) 担い手の研修をサポート(しがの漁業担い手研修支援事業)

「しがの漁業技術研修センター」とともに、漁業就業希望者への就業相談や実地研修に取り組みます。

(2) 担い手の独り立ちをサポート(しがの漁業担い手着業支援事業)

新規漁業者の漁具・漁船の取得や操業にかかる経費を支援し、新たな担い手の就業・定着を促進します。

(3) 意欲的な担い手を支援(しがの漁業担い手グループ支援事業補助金)

湖魚販売や湖魚食普及に意欲的に取り組む担い手団体の活動を支援します。

～事業の実績～

平成28年度の研修制度創設以降、新たに20名(令和7年3月時点)の研修生が漁業者として就業しています。



漁業研修の様子